

# がんばろう日本



3月11日に発生した東日本大震災から5か月が経過しました。

大隅半島の4市5町で構成する岩手県大船渡市復興支援チームは、現在25次隊を派遣し支援活動を行っています。

これまで支援チーム員は、支援物資の仕分け作業や被災した車両の警備、廃車手続き事務、給水作業、保健師による被災者の訪問活動を行ってきました。

給水作業については、ライフラインの復旧により6月初旬に業務を終了しています。7月初旬からは、支援物資の仕分け作業、被災した車両の警備を現地職員に引き継ぎ、義援金の支払いや相談などの窓口業務を担当しています。

今後も相互に連絡を取り合いながら、求められる支援に応じた人的配置を調整するとともに、復興支援を行います。復興支援にあたった職員の声を紹介いたします。

## 第16次派遣

溝口卓也【管理課】

【6月20日～6月27日】

小中学校では校庭に仮設住宅、体育館にはたくさんさんの支援物資があり、その中で、子どもたちの遊ぶ場所を確保するために、食料品とそれ以外の物資に分けて市内2か所に集約する作業が始まりました。ボランティア、企業、自衛隊、様々な自治体など、本当に多くの方の協力により作業が進んでおります。作業をする中で、みなさんのパワーに圧倒されました。それぞれの立場に関係なく、復興を願い、心を一つに、汗水流して一生懸命に考え、一生懸命に作業に向かう姿に、深い感銘とパワーを頂くことができました。

## 第16次派遣

山崎瑞恵【保健福祉課】

【6月20日～6月27日】

現地で出会った人たちは、弱い人たちであり、強い人たちでもありました。同じ体験をしても、捉え方や、心身への影響は一人ひとり違いました。「大丈夫です。」と笑顔で動かれる方、「自分はおかしくなってしまうたのでは。」と座ったままずっと涙される方、様々でした。どちらも本当の姿なんだなと思いました。恐怖心、喪失感はもちろん、異常事態の中で自分の限界を知り、他者に助けを求め、そこから明日を向いて生きていこうという姿から、多くのことを学びました。

## 第17次派遣

美坐勇作【総務課】

【6月26日～7月3日】

全国へ広がる復興支援の『輪』。復興を願い、未来のためにがんばる姿に感動しました。復興を願って全国から集まってくるボランティアや支援の方々とともに、物資の搬入、搬出作業や仕分け作業に汗を流した支援活動は一生忘れられない経験となりました。7月1日からは大船渡市役所で義援金に関する事務を行い、少しでも早く義援金を被災者の方々へ届けたいという思いで取り組みました。

全国から復興を願う心がひとつになった『絆』を感じた派遣となりました。

## 第18次派遣

新馬場繁【税務課】

【7月2日～7月9日】

第18次班から義援金の支払事務を担当しました。事務を行っている際に被災者及び遺族の方と接する機会が多かったのですが、多くの方が苦しい状況に居られるにも関わらず、我々に労いや感謝の言葉を下さるのが印象的でした。まだまだ復興は完了していませんが、あの方々ならきっと成し遂げられると感じました。

今回の派遣で終わるのではなく、今後どのような支援が出来るのか私個人としても考えて、行動したいと思いました。

## 第19次派遣

西ノ園秀作【農林振興課】

【7月8日～7月15日】

これまでテレビで見えていた被災地の光景を実際に見て、改めて震災の悲惨さを感じました。

今回の派遣では市役所内で、義援金事務を行いました。全国から自治体職員が集まっており、復興に向けて思いはひとつだと感じました。また、被災者の方々には窓口でも明るく接していただき、人は互いに支え合いながら生きていくことを教わりました。

今後は一日でも早く、そして多くの方に義援金等が支給され生活の再建に役立てていただければと思います。